

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520830

研究課題名(和文) アメリカ現代史における国民形成と貧困問題 人種境界との関係を中心に

研究課題名(英文) Nation Making and the Poverty in the Twentieth Century America: Reconsidering the Ethno-Racial Divisions as Social Issue.

研究代表者

中野 耕太郎 (Nakano, Kotaro)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：00264789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は20世紀初頭から1920年代のアメリカ政治・社会を主たる対象として、貧困問題と国民形成、さらには人種・エスニック境界の構築との相互関係を検証した。具体的には、同時代の知識人による多様な社会的平等論や、都市改革者の救貧事業の実践、さらには第一次世界大戦前後の時期にはじまる母子保護法や都市ゾーニング立法など、萌芽的な社会政策を詳細に分析し、どのような歴史的文脈の中で、20世紀アメリカのナショナリズムと貧困撲滅、その他の社会改良が結びつき、またそのことが予期せぬ様々な分断線をアメリカの都市生活と国民社会内部に確定していったのかを考察した。

研究成果の概要(英文)：This study examined the historical co-relations of the poverty and the nation making of the early twentieth century America. To explore this historical process, I analyzed the contemporary discourses on social equality and diverse practices of anti-poverty by urban intellectuals. Furthermore, this study surveyed the early legislations of social welfare policy, that is the Sheppard-Towner Maternity and Infancy Protection Act of 1921 and city planning regulations, such as the Standard State Zoning Enabling Act of 1922. By working on these topics, I also elucidated the historical contexts which consequently brought about the complex ethno-racial divisions within in the American nation.

研究分野：人文学

キーワード：南北アメリカ史 ナショナリズム 社会福祉 人種

1. 研究開始当初の背景

研究代表者、中野はこれまでアメリカ合衆国のナショナリズムの歴史を数年にわたり研究してきたが、本研究開始当初の段階で、次のことを明らかにしていた。すなわち、第一次大戦参戦期を分水嶺として成立した 20 世紀アメリカの国民国家は、ヨーロッパ系移民を文化多元的に統合する一方で、黒人やアジア系については、これを人種的他者として二級市民化する構造を持った。特に第一次大戦と戦争直後の時期に、北部都市で頻発した人種暴動では、民間の暴力と公権力による平和維持という二重の「暴力」が国民共同体内部に人種的な境界線を画定する機能を果たした。上記、研究成果の一部は、(論文)中野耕太郎著「20 世紀国民秩序と人種の暴力 1919 年シカゴ人種暴動の検討」『歴史科学』第 200 号 (2010 年 4 月) 掲載、として刊行した。

ただし、この国民形成にともなう内的な他者創出の検討を進めるうちに、人種偏見や白人性のみが単独で暴力を惹起することはまれで、むしろ人種主義と他の社会問題、特に貧困問題が結合したところに大きな差異の感覚(他者意識)が生じることが分かってきた。そうした経緯から、同時代の社会思想や都市改革の実践を再検討し、とりわけ北部の工業都市を舞台として、いわゆる「社会問題」がいかに 20 世紀のアメリカ国民を創り、また分断したのかという本研究の課題を認識するにいたった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、20 世紀初頭から 1920 年代までの時期を対象に、現代アメリカの国民形成過程において貧困に代表される都市の社会問題が果たした役割を考察することであった。特に当時の都市政治の諸相に遍在した「人種と貧困」、「福祉と隔離」というカップリングに注目して 20 世紀のアメリカ合衆国の国民国家としての性格を

検討した。具体的に、人種と貧困、福祉と隔離がそれぞれ結びついていく歴史的コンテキストを明らかにすべく、(1)20 世紀転換期から第一次大戦後のアメリカの都市改革者や社会学者の貧困論をその人種問題との関連に注意して整理、検討し、(2)そうした知識人の言論活動と密接に関わりながら展開した、黒人の改良運動やヨーロッパ移民の互助活動などにも注目する。さらに、(3)そうした知識人の言論と民衆運動の結節点としての政治の領域、すなわち、第一次大戦から 1920 年代の社会・福祉政策と人種分離制度 (= 都市の分画化) の形成過程を考察した。

すでに知られるとおり、1930 年代のニューディール体制下に成立した社会保障法は、社会保険や老齢年金といった一般的セーフティネット(社会権の entitlement)と、要扶養児童家庭扶助などの「救貧」的性格の強い制度の二重構造となっていた。本研究の関心から言うと、前者は国民統合に向かう包摂を、後者は受給者に社会スティグマ(劣者の烙印)を与える傾向があった。ニューディールはまた、福祉国家政策の一環として、連邦住宅公社を創設するが、ここで供給された公営住宅の中にも人種隔離の慣習が浸透していたのである。

しかし、本研究は、1930 年代以降の展開を視野に入れつつも、あくまで 1920 年代までの状況を分析の対象としたい。この 20 世紀の最初の 20 数年間は、貧困がはじめて社会問題として広く認識され、社会福祉政策の必要が叫ばれる時期であり、同時に、北部都市を含めて人種暴力が蔓延し、特に居住区の人種隔離が進行する時期でもある。たしかに 20 年代には連邦法レベルでは 1921 年 Sheppard-Towner 母子衛生法を除いて目立った福祉立法は実現しない。しかし、州レベル、自治体レベルでは、母親年金制度やスラムの住宅改革が進行するとと

もに、22年の都市区画制授權法（A Standard State Zoning Enabling Act）を契機に、大都市のゾーニング制度が、連邦商務省の監督下に著しく拡大してもいた。こうした20年代までの展開は、ニューディール期に国策として表出する貧困政策や人種隔離の社会的、政治的前提を構成するものであり、また今日まで続くアメリカ国民社会の分断状況の大きな背景を知るうえで極めて重要である。

3. 研究の方法

本研究は、20世紀のアメリカ国民形成の実態を検証するにあたり、具体的に3つのアプローチから考察を進めた。（1）20世紀初頭の知識人・都市改革者が展開した、反貧困・慈善に関する思想や学術研究の分析 特に、北部都市に展開したセツルメント運動、その他の革新主義者が到達した新しい「平等」観と「社会的なもの」の領域に関わる問題に注目した。（2）黒人中産階級の社会事業家や移民の民族団体、教会（教区組織）などマイノリティ自身が行った反貧困事業や相互扶助の分析 特に黒人の北部都市での改善運動である都市連盟とポーランド系移民の活動を検証した。（3）地方レベル、連邦レベルでの福祉行政と人種隔離・ゾーニングの展開の分析

1920年代の連邦母子衛生法、都市区画制授權法の形成と運用の過程に注目し、上記革新主義・都市改革の思想、運動がいかに全国的な政治、行政へ反映したかを考察した。なお、各段階の調査、研究はシカゴ市における実地での文献調査に基づくケーススタディーと全国的な政治史、社会思想史の研究の両面から実施した。本研究の分析対象は、都市の住宅・衛生問題や公的福祉が争点として含まれるため、地域の政治・社会構造や文化的環境などをミクロな社会史的視点から観察することが不可欠であり、

大量の新移民と黒人人口を擁した20世紀初頭のシカゴは、国民形成と貧困・人種問題の実態を検証するのに最適な都市だと考えられる。

4. 研究成果

（1）平成24年度は主にヨーロッパ系の移民問題に関連したアメリカ知識人の貧困観、国民観の検討と移民の社会生活実態の検討に焦点を当てて研究を進めた。なかでも、当時シカゴ大学を拠点に移民コミュニティの大規模な社会調査を行ったEdith Abbottと、その妹で民間NPOの移民保護連盟や連邦政府の児童労働部門で活動したGrace Abbottの思想と行動に注目し、シカゴ大学レーゲンシュテイン図書館所蔵のEdith & Grace Abbott Papers等を調査した。

さらに、移民の側で記憶される貧困体験とアメリカ社会への同化プロセスについても検討した。具体的には、シカゴ歴史博物館所蔵のポーランド移民のオーラルヒストリー史料を渉猟し、移民一世世代の生活のありようを調査した。新来のポーランド移民が、そのソーシャル・ライフと経済的なセキュリティをPolish Falconなどの民族的相互扶助組織やカトリック教会の教区学校等の諸事業に大きく依存していた実情があらためて明らかになった。また、革新主義の都市改革者や黒人中産階級の改良事業との接点を移民大衆のレベルで見出すことは、少なくとも20世紀初頭の段階においては、困難であるとの印象を受けた。

上記の一次史料調査に加えて、研究課題への方法論的アプローチを洗練するために、思想史的研究をあわせて実施した。その一つの成果として、共著書『社会的なもののために』を刊行した。同書の編集・校正作業をとおして、現代アメリカの地域自治やコミュニティのあり方、そして自治体レベル、国家レベルでの経済規制や福祉政策の意味を考えることができた。この時期の

アメリカに立ち現れた「社会的なもの」を再検討することは、本研究の分析視角を精緻に構築するうえで有意義な作業だったと言える。

(2) 平成25年度は、第一次大戦前後の時期に、母子保護・児童福祉の重要性を訴えた都市改革者の活動と北部都市の黒人団体の社会改良運動を中心に研究を進めた。第一に、戦時下の労働省に児童局を創設し、また戦後、Sheppard-Towner母子衛生法の成立に関わったJulia Lathropの活動を、イリノイ大学シカゴ校Richard J. Daley Library所蔵のLathrop Papersを手がかりに考察した。同文書は、必ずしも大部のものではなかったが、彼女が第一次大戦前のかなり早い時期から、低所得と劣悪な公衆衛生の問題を幼児死亡率の観点から具体的に認識していたことがわかった。第二に同じくイリノイ大学図書館所蔵のシカゴ都市連盟という黒人団体の文書史料を調査し、黒人の側から試みられた北部産業都市社会への適応と貧困対策について検証を進めた。都市連盟は元来、救貧組織ではないが、遅くとも1927、28年頃までには、組織内に緊急救済委員会なる部局を立ち上げ、年間100名近い黒人の困窮者に宿泊場所と食料を提供する活動を行っていたことがわかった。シカゴ都市連盟の主力は黒人中産階級の改革者であり、白人女性を中心とする同市の慈善ネットワークとも交流があったが、個々の事業に関しては独立性が高く、移民団体との関係も非常に薄いことが確認された。

上記の文書調査に加えて、第一次大戦期の国民形成について、より包括的にその歴史的文脈を明確化すべく、単著『戦争のつぼ 第一次世界大戦とアメリカニズム』を上梓した。また国民形成の問題を思想的により一般化する作業も続け、第47回アメリカ学会年次大会では、シンポジウム

「平等概念の多様性」のパネリストとして、「革新主義と社会的な平等」と題する報告を行った。この報告では、「見苦しくない生活水準」の享受といった社会的平等の思想が、しばしば20世紀アメリカのナショナリズムの言論と混ざり合っていた事実を明らかにした。

(3) 平成26年度は、地方レベル、都市レベルにおける貧困対策や社会改良が、次第に全国レベルの思想言説や社会運動に吸収され、より大きな歴史ダイナミズムを生み出していく局面に注目して研究を進めた。特に前年度のアメリカ学会報告で手がかりを得た「社会的平等」という概念を切り口に、より包括的な思想的な分析を進めた。具体的には、シカゴの救貧活動から全国的なオピニオンリーダーとなったJane AddamsやJohn Ryanらの「社会的平等」論に注目し、この新しい反貧困論が従来の社会主義や新興の黒人市民権運動と比して、当時の政治・思想空間にどのようにマッピングできるかを明らかにした。さらに、かかる「社会的平等」なるものの歴史的展開を検討することで、広く20世紀初頭のアメリカ革新主義と人種的なナショナリズムの複雑な関係を検討した。そうした考察の一端は、2014年度科研費成果公開費を得て刊行した、単著『20世紀アメリカ国民秩序の形成』（名古屋大学出版会）の中で公にした。

(4) 研究最終年の平成27年度は、より政治的な領域に焦点を合わせ、特に1920年代の連邦政府による社会・福祉政策を考察した。具体的には、連邦児童局と同局長Julia Lathropに注目して、1921年母子衛生保護法（Sheppard-Towner Maternal and Infancy Act）の実施の過程を検証した。Lathropの思想的背景を明らかにするために、シカゴ大学レーゲンシュタイン図書館所蔵のGrace Abbott文書、および、

Sophonisba Breckenridge文書の中のLathrop関連書簡を収集し、検討を加えた。また、メリーランドのアメリカ国立公文書館IIでは1920年代前半の連邦児童局記録(Record Group 102)を通覧して同局とSheppard-Towner法との関係を考察した。これらの文書調査と、さらに加えて関連する諸文献の分析から以下のことが確認された。まず、児童局の母子衛生事業の推進にあたって、LathropはG. AbbottやBreckenridge等、シカゴの女性改革者との緊密なネットワークを背景に、きわめて大きなリーダーシップを発揮していた。また、同事業の運営においては州ごと自治体ごとに相当な違い、多様性があった。さらにTowner法の実践を通じて、母子衛生問題の中に農村の貧困や人種・エスニックな「助産師の役割」というエスノ・カルチュラルな領域が見出されていった。児童局が差配する中産階級の人材と地域社会、特に黒人コミュニティとの間には様々な軋轢が醸成される余地があったのである。

加えて、本年の研究では、1924年～28年に出版された商務省都市区画制諮問委員会報告書入手し、1920年代に拡大する大都市圏のゾーニング政策を当時の都市計画と貧困問題との関連から検証する手がかりを得た。これらの報告書では、ゾーニングは広く、健康、安全、道徳、一般福祉の増進を目的とすると定義されていたが、その含意するところは複雑である。いずれにせよ、この商務省の文献によると、1921年に48自治体にしかなかったゾーニング制度は、23年末には218都市、2200万人の住民に影響を与え、1925年には同制度が存在する州は19に及んでいたことがわかる。都市のゾーニングは1920年代において、すでに不可逆的な潮流を成していたように見える。

なお本年は、アメリカ・ナショナリズムの歴史の変容をより一般的に現代史の展開

の中に位置づける理論的な考察も進め、専門誌『歴史評論』誌上に論文「アメリカ『現代史』の起点を求めて アメリカ・ナショナリズム再考」を上梓した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)
中野耕太郎 「アメリカ『現代史』の起点を求めて アメリカ・ナショナリズム再考」『歴史評論』第780号(2015年4月) 40-50, 16頁、査読なし

〔学会発表〕(計 6件)
中野耕太郎 「20世紀アメリカ国民秩序と教育問題」, 比較社会教育史研究会 2015年度秋季例会(2015年10月25日 青山学院大学)

中野耕太郎 「第一次大戦と人種エスニック・マイノリティ—総力戦と市民社会の再編」第40回日本アメリカ史学会 シンポジウム A 『戦時下アメリカのマイノリティ』(2015年9月26日 北海道大学)

中野耕太郎 「衝撃都市シカゴの20世紀統合と隔離の学知: 1880s-1920s」現代ヨーロッパの都市と住宅に関する歴史的研究 2013年度第4回研究会(2014年3月5日 大阪市立大学・梅田サテライト)

中野耕太郎 「革新主義と社会的な平等」, 第47回アメリカ学会年次大会 シンポジウム 『平等概念の多様性』(2013年6月1日 東京外国語大学)

中野耕太郎 「コメント: アメリカ史の視点から」, 第63回日本西洋史学会大会 小シンポジウム 『第一次世界大戦再考』(2013年5月12日 京都大学)

Kotaro NAKANO, "Comments on 'How Race and Ethnicity Shaped an American City' by James R. Barrett," Global History Seminar in Osaka, (July 2, 2012, at the School of Letters, Osaka University)

〔図書〕(計 5件)

中野耕太郎 『20世紀アメリカ国民秩序の形成』、2015年2月、名古屋大学出版会 408頁

中野耕太郎 他、『現代の起点 第一次世界大戦 第4巻 遺産』(山室信一他編)岩波書店、2014年、219-247頁

中野耕太郎 他 『北米の小さな博物館「知」の世界遺産 3』(北米エスニシティ研究会編)彩流社、2014年、60-68頁

中野耕太郎 『戦争のるつぼ 第一次世界大戦とアメリカニズム』、人文書院、2013年、174頁

中野耕太郎 他 『社会的なもののために』(市野川容孝、宇城輝人編)ナカニジヤ出版、2013年(第1章「ネオリベリズムと社会的な国家」、第3章「社会的なものとノの境界」の座談討論に参加)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野耕太郎 (NAKANO KOTARO)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：00264789

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし